

修士論文（要旨）

2013年1月

二言語環境に育った在日中国人のアイデンティティ
—6人のインタビューに基づいて—

指導 佐々木倫子 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

210J3018

劉揚

目次

第1章 研究の背景と目的	1
1.1 研究の背景	1
1.2 研究の目的	3
第2章 先行研究と主要概念の定義	5
2.1 アイデンティティに関する先行研究	5
2.2 言語習得に関する先行研究	6
2.3 アイデンティティの定義	7
第3章 調査の概要	9
3.1 調査対象と方法	9
3.2 調査内容	9
3.3 インタビューの流れ	9
3.4 本稿での中国語力の評価方法	10
第4章 調査結果	13
4.1 CF1 へのインタビュー	13
4.1.1 CF1 の生い立ち	13
4.1.2 言語面	13
4.1.3 生活面	15
4.1.4 意識面	18
4.1.5 将来について	20
4.1.6 後輩たちへのアドバイス	21
4.2 CM1 へのインタビュー	21
4.2.1 CM1 の生い立ち	22
4.2.2 言語面	22
4.2.3 生活面	24
4.2.4 意識面	26
4.2.5 将来について	29
4.2.6 後輩たちへのアドバイス	29
4.3 CM2 へのインタビュー	30
4.3.1 CM2 の生い立ち	31
4.3.2 言語面	31
4.3.3 生活面	32
4.3.4 意識面	34
4.3.5 将来について	37
4.3.6 後輩たちへのアドバイス	37
第5章 調査結果の考察	39
5.1 言語の発達	39
5.1.1 言語能力調査の結果	39
5.1.2 調査結果の考察	40
5.2 アイデンティティの形成	49
5.2.1 アイデンティティのタイプ	49
5.2.2 調査結果の考察	51
第6章 まとめ	56

謝辞

引用・参考文献

資料

「インタビュー用質問項目」

「表3 共通参照レベル：自己評価表」

第1章 研究の背景と目的

第1章では、本研究の背景や問題意識、研究目的について述べる。

近年日本の教育現場に多様な言語背景や文化背景をもった、外国人児童が急増している。このような子ども達が、それまで使用していた言語とは異なる言語社会への転入を余儀なくされ、二つ以上の言語・文化の狭間で成長することになり、問題を抱えるケースが多い。このような子どもにとって、母語・継承語の保持も含めた言語の発達、情緒の安定や民族的アイデンティティ形成のためだけでなく、子どもの考える力や生きる力の育成においても重要であるにもかかわらず、これまでの研究の多くは、それに焦点を当てたものではない。また、このような子どもがどのように発達して成人したかを調査し、当事者の声を伝えた研究は少ない。そこで、本研究は、従来の研究では行われてこなかった元中国人留学生を親に持つ二言語環境に育った20代の在日中国人の成長を彼らの言語の発達とアイデンティティの形成に焦点を当てて、本人たちへのインタビューから明らかにすることを試みる。

第2章 先行研究と主要概念の定義

第2章では、これまでの先行研究の中で、本研究と直接関係するものとして、過放(1999)、李・佐野(2010)、鈴木(2006)などを取りあげ、本研究の位置づけと主要概念であるアイデンティティの定義を説明する。すなわち、本研究では「アイデンティティ」とは、自分は何者なのかという人間の根源的な問いかけの答えをさまざまな局面、人間関係を通して模索していくものであり、簡単に言葉で表現できない無意識の領域下も含めて自分自身をどう捉えるかという感覚と定義する。

第3章 調査の概要

第3章では、調査対象や調査の期日・場所・調査内容・調査方法・インタビューの流れなど、調査の概要を説明する。調査方法として、半構造化インタビュー形式を取り、調査対象者の属性や来日の経緯・経歴、言語の学習経歴、言語の使用状況、言語の自己評価、継承意識と母語保持努力、日本での生活環境、帰属意識など、大まかに質問事項を決めておき、事例をてらし合わせ、分析を行う。

第4章 調査結果

6つの事例の一部を言語面、生活面、意識面という3つの側面に注目して分析と考察を行った。ケース1は、母語喪失がかなり進行しており、日本語を母国話者並みに使いこなせ、溶け込んでいても、日本人になりえないと自己規定している。中国人としてのアイデンティティを持ち、日本での精神的なプレッシャーを肯定的に捉えている。ケース2は、母語喪失が読み書きを中心に進行している。思ったことをストレートに言うタイプのため、人とぶつかることが多く、なかなか周りの人とうまく人間関係を築けず、来日15年になるが、いまだに日本の学校生活に馴染んでいない。愛国心が低く、民族意識も薄い。ケース3は、母語喪失が全体的に進行している。学校生活に関しては小学校から大学までそれなりに努力して特に問題がなかったが、対人関係においては特に中学校の頃激しいいじめに遭った経験があるため、いまだに心の傷として残っているようである。帰属意識に関しては一応中国人としてのアイデンティティを持っている。

第5章 調査結果の考察

言語使用、言語意識、家庭環境、母語保持のための努力と各事例の言語能力との関連を検討した結果、幼少時の親の言語意識と言語使用が子どもの母語保持の決め手であることが示されている。また、子どもの言語育成問題を考える場合、家庭環境、親の母語保持に関する意識、家庭内の言語使用も大事だが、それより本人の母語保持意識はより重要である。母語保持・育成に対して強い意志を持って努力してはじめて母語の保持・伸長につながり、そうでない場合は特に社会で主に使われている言語とは異なる言語を母語とする場合はなかなか難しい。各ケースのアイデンティティのあり様をインタビューでの彼らの語りに基づいて考察した結果、4

タイプに分けられた。それは「中国人アイデンティティ」、「6対4で日本人と中国人→上海人」、「日本人でも中国人でもない→中国人」、「日本人アイデンティティ」の4タイプである。また、調査協力者6人の語りからアイデンティティの形成に影響を与える要素を整理した結果、他者からの位置づけ、被差別体験、家庭からの影響の3点が浮かび上がった。さらに、6事例に対するアイデンティティに関する関連質問への回答を分析することにより、彼らのアイデンティティの全体像を浮き彫りにした。

第6章 まとめ

6ケースの言語能力について自己評価では、一部の人と個別な言語能力を除いて大半の人は母語喪失がかなり進行し、日本語能力は6段階中最も能力の高いC2レベルにあり、高い日本語能力を持っているとされた。また、親と本人の母語保持意識が重要であることが分かった。

本人たちの語りを通して彼らのアイデンティティを考察した結果、日本で教育を受けても、ほとんどの人は中国人としてのアイデンティティを持っていることが分かった。だが、それは揺れ動く、重層的で個別的なアイデンティティ形成であった。さらに、エスニック・アイデンティティの形成において他者との関わりによる影響が最も重要な要因であることが明らかになった。

以上のことを鑑みて、以下を提案した。

- 1、移動する子どもの母語・母文化を尊重し・肯定する学校文化を構築し、学校での子どもの居場所作りなど具体的な支援を教育機関が主体となって行う。
- 2、家庭内で母語保持努力をしてほしい。
- 3、地域社会や学校レベルで母語・母文化を勉強する機会を提供してほしい。
- 4、母語教育活動に対して何らかの財政的援助をしてほしい。

参考文献

- 池上摩希子 (1994) 『中国帰国生徒』に対する日本語教育の役割と課題『日本語教育』 83 号 pp. 16-28
- E. H. エリクソン (1973) 『自我同一性—アイデンティティとライフサイクル』 誠信書房
- 尾関史・川上郁雄 (2010) 「移動する子どもとして成長した大学生の複数言語能力に関する語り」『複言語・複文化主義とは何か』くろしお出版, pp. 80-92
- 過放 (1999) 『在日華僑のアイデンティティの変容—華僑の多元的共生—』東信堂 p. 170
- 川上郁雄 (2006) 『移動する子どもたちと日本語教育』 明石書店
- 齋藤ひろみ(1997) 「中国帰国者子女の母語喪失の実態—母語保持教室に通う4名のケースを通して—」『言語文化と日本語教育』14, pp. 26-40
- 朱睨淑 (2002) 「日本語を母語としない児童の母語力と家庭における母語保持—公立小学校に通う韓国人児童を中心に—」『言語文化と日本語教育第』26号 pp. 14-26 お茶の水女子大学日本言語文化学会
- 谷冬彦 (2001) 「青年期における同一性の感覚の構造：多次元自我同一性尺度 (MEIS) の作成」『教育心理学研究』49(3), pp. 265-273
- 趙衛国(2007) 「中国人高校生の異文化適応過程—文化的アイデンティティ形成の要因に注目して—」『東京大学大学院教育研究科紀要』第47巻 pp. 337-346
- 中島和子(2001) 『バイリンガル教育の方法—12歳までに親と教師ができること—』アルク
- 箕浦康子 (1994) 「異文化で育つ子どもたちの文化的アイデンティティ」『教育学研究』第61巻第3号 pp. 9-17
- 李原翔・佐野秀樹 (2010) 「中国帰国者三世の文化的アイデンティティの形成について」『東京学芸大学紀要』総合教育科学系 I 61: 185

参考サイト

- 鈴木一代 (2005) 「日系国際児の文化的アイデンティティ形成—事例の検討—」『埼玉学園大学紀要 (人間学部篇) 第5号』
http://www.media.saigaku.ac.jp/download/pdf/vol5/human/07_suzuki.pdf#search
(2012年5月19日検索)
- 福田浩子 ウェブサイト「[Skypeで本格オンライン英会話! ワンズワード・オンライン](http://www.onesword-online.com/cefr/about)」
<http://www.onesword-online.com/cefr/about>
(2012年5月31日検索)
- 法務省 (2011) 「平成23年6月末現在における外国人登録者数について」
http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri04_00015.html
(2012年5月31日検索)
- 吉島茂、大橋理枝 (訳・編) (2004) 『外国語教育Ⅱ—外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』 朝日出版社 p. 25
<http://www.dokkyo.net/~daf-kurs/library.html> (2012年5月20日検索)